

# フィールドワークによる基礎総合管理学演習の取り組み ～「人吉球磨地域の今」を発信する～

高濱 信介

1. はじめに
2. 基礎総合管理学演習の概要
3. テーマの設定
4. 演習の内容
5. 取り組みの成果と課題
6. おわりに
7. 謝辞

## 1. はじめに

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により年度当初から全国的に休校措置がとられ、本学においても4月6日から5月31日にかけて休校となった。特に新入生については入学式が中止、新入生オリエンテーションも遠隔で実施されることとなった。授業が開始された以降も感染拡大防止の観点から実習や演習等を除き遠隔授業中心の授業実施とされた。このため教員と学生、また学生同士が対面で接する機会が少なくなり、コミュニケーションの希薄化や学生同士の学び合いの機会の減少が懸念されている。後期の授業が始まった9月以降においては、遠隔授業中心ではあるものの3密を回避する工夫を徹底しながら、対面授業も実施されてきたところである。

ところで、総合管理学部の1年後期では必修科目として「基礎総合管理学演習」を履修する。この授業は、1年前期の「プレゼミナール」に続き、「基礎総合管理学Ⅰ」等で身に付けた地域課題を解決するための知識を踏まえ、設定されたテーマについて調べ学習を行い、その成果を取りまとめ、プレゼンテーションを実施するものである。また、ゼミ活動を通して課題解決力を育成するとともに、チームで活動することが求められている。そこで、担当するクラスについては、他のゼミとの交流により活動の活性化を図るため、宮園博光先生及び岩見麻子先生のゼミと連携し合同で演習に取り組んだ。以下、コロナ禍において被災地で実施したフィールドワークによる基礎総合管理学演習の取り組みについて報告する。

## 2. 基礎総合管理学演習の概要

基礎総合管理学演習は計8回の授業が予定されており、成果発表会を複数のゼミ合同で行うのが一般的である。今回は、授業全体を通して3ゼミ合同（1年生33人）で授業を進めることとした。全体の授業スケジュールは以下のとおりである。

（授業スケジュール）

	日時	授業内容
1	9月29日（火）	ガイダンス
2	10月13日（火）	事前学習（人吉球磨地域について／グループ分け）
3	10月27日（火）	外部講師による特別授業（インタビューの技術について）
4	11月10日（火）	グループワーク（フィールドワークの事前準備／役割分担）
5	11月14日（土）	フィールドワーク（人吉城跡、青井阿蘇神社、球泉洞）
	11月15日（日）	フィールドワーク（織月酒造、くま川鉄道）
	11月21日（土）	フィールドワーク（球磨川くんだり）
6	11月24日（火）	グループワーク（調査結果のまとめ）
7	12月1日（火）	グループワーク（プレゼンテーション資料の作成）
-	12月8日（火）	自主学习（プレゼンテーション資料の作成）
8	12月15日（火）	合同発表会

## 3. テーマの設定

テーマについては、豪雨災害からの復旧・復興に取り組んでいる人吉球磨地域を対象地域として調べ学習を行い、被災地の現状や課題に対する理解を深めることとした。

なお、対象地域に設定した人吉球磨地域の災害について詳述すると、令和2年7月に熊本県を中心に降り続いた大雨は、7月4日未明の集中豪雨により多くの犠牲者を出すなど甚大な被

害をもたらした。特に球磨川流域においては河川の氾濫により市街地の大部分が浸水し、全壊、半壊、床上浸水など多くの世帯で住宅被害が発生し、仮設住宅での生活を余儀なくされている方も多い。

また、商店、旅館、ホテル、観光施設等においては浸水被害により設備が使用できなくなるなど未だ再開の目処が立っていない施設も多い。さらには、道路や鉄道（JR 肥薩線、くま川鉄道）などの交通インフラについて橋梁が流出するなど甚大な被害が発生し、通勤通学等の住民生活に大きな支障が生じている。被災後5か月（12月末現在）が経過し、行政により仮設住宅の建設やインフラの回復に向けた取組みが鋭意進められているが、被災地は未だ復旧・復興の途上にある。

今回は地域課題への理解を一層深めるため、実際に被災地を訪問して現地調査し被災者から話を聞くというフィールドワークの手法により演習を進めることとし、最終的にグループで調査した「人吉球磨地域の今」について発表することをアウトプットとした。



被災後の人吉市内（青井阿蘇神社周辺）の様子（2020年7月22日撮影）

#### 4. 演習の内容

##### （1）事前学習（10月13日）

###### ① 調査対象の検討

豪雨災害により甚大な被害を被った人吉球磨地域を対象地域として、まずは、インターネットや図書館等を活用した調査方法を紹介したうえで、人吉球磨地域の歴史、文化、産業、観光資源等について調べ学習を実施した。

グループにおける検討の結果、「人吉城跡」「青井阿蘇神社」「球磨焼酎」「球磨川くんだり」「くま川鉄道」「球泉洞」の6つを調査対象に選定した。

###### ② グループ分け

新型コロナウイルスの感染防止に最大限注意しつつ、被災地の負担にならないよう配慮して、5～7名程度の小グループに分かれ学習を進めることとした。

上記①の6つの調査対象のうちどれを担当したいか希望を取り、3ゼミ間の垣根を超えたグループを編成した。

担当する調査対象について、被災前及び被災後の状況等を調べることで、現地調査での質問内容を準備しておくことを課題として事前学習を進めた。



10月13日事前学習

## (2) 外部講師による特別講義 (10月27日)

1年生にとって初めてのフィールドワークであること、また被災者に対する聞き取り調査であることを考慮し、取材活動の専門家を招聘して特別授業を実施した。KAB熊本朝日放送のアナウンサーでありディレクターとして現場での取材活動に携わっている柴田理美氏を特別講師として、「インタビューの技術」について講義及び実技演習を実施していただいた。

講義内容としては、まず人吉球磨地域における実際の映像資料を活用して被災地直後の状況について紹介された。

次に、普段の放送では使用されない映像資料により、取材者が被災者に対しどのような質問をしているかについて解説があった。

相手の言葉を引き出すためには、「Yes」又は「No」で答える質問ではなく、「5W1H

(What, Who, When, Where, Why, How)」による質問が重要との助言があった。このことを踏まえ、「新型コロナウイルスが収束した後」にやってみたいことをテーマにグループで聞き取りする演習を実施した。

さらに、被災地で活動することに鑑み、被災者に対する質問の仕方や聞く態度についてグループでの実技演習を実施した。実技後に質問の仕方の違いによる質問される側の受け止め方や「いい質問」とはどのような質問だったかについて振り返りを行い、理解を深めた。また、取材後の整理のためにメモを取ることの重要性について説明された。

質疑応答では、取材時の服装についての質問があり、華美でない服装が好ましいこと、女性であればスカートではなく動きやすいパンツスタイルが良いとの助言があった。



特別講師 柴田理美氏  
(KAB熊本朝日放送アナウンサー)

## (3) グループワーク (11月10日)

まずフィールドワークにおける以下の役割についてグループ毎に担当を決定した。

- ① ディレクター (進行役)
- ② インタビュアー (質問者)
- ③ カメラマン (iPadを使用)
- ④ 録音係 (ICレコーダーを使用)
- ⑤ 記録係 (メモ取り)

次に、調査対象について各自で調べてきた事を整理し、質問する内容を検討した。



11月10日グループワーク

(4) フィールドワーク (11月14日、15日、21日)

① 準備

コロナ禍での活動となるため、学生が選んだ調査対象について人吉市役所及び人吉温泉観光協会、球磨村森林組合の協力のもと、教員側で受入れ先の調整を行った。

新型コロナウイルス対策として、移動は席にゆとりがある小型の貸切バス及びジャンボタクシーを利用し、ソーシャルディスタンスに配慮した配席とした。また、各グループには引率教員1名以上が帯同し、乗車前の体調確認、検温、手指の消毒を徹底した。

なお、車両借上等の財源については新設された「復興・再生支援事業」を活用した。

② 訪問先

- A 人吉城跡 (人吉市)
- B 青井阿蘇神社 (人吉市)
- C 織月酒造 (人吉市)
- D 球磨川くだり (人吉市)
- E くま川鉄道 (相良村、人吉市)
- F 球泉洞 (球磨村)



<https://www.google.co.jp/maps/>

③ フィールドワークの内容

A 人吉城跡

人吉市教育委員会岸田学芸員から、人吉城の歴史、被災時の状況、今後の課題等について聞き取り調査を実施した。



(人吉城跡全景)



(石垣の解説)

B 青井阿蘇神社

青井阿蘇神社福川宮司から、神社の歴史、文化的価値、被災時の状況等について聞き取り調査を実施した。



(国宝の楼門)



(聞き取り調査の様子)

C 球磨焼酎（絨月酒造）

絨月酒造株式会社田中常務から、球磨焼酎の歴史、新型コロナウイルスの影響、被災時の状況等について聞き取り調査を実施した。



(7月4日の敷地内の様子)



(7月4日の製品倉庫の様子)

#### D 球磨川くだり

球磨川くだり株式会社瀬崎社長及び中川部長から、球磨川くだりの被災状況について聞き取り調査を実施した。また、同社の「サイクルツーリズム」を体験し、みそ・しょうゆ蔵～温泉旅館～青井阿蘇神社～人吉城跡を訪問し、被災者からお話を伺った。



(球磨川くだりの説明)



(サイクルツーリズム体験)



(みそしょうゆ蔵 釜田醸造所)



(温泉旅館 あゆの里)

#### E くま川鉄道

くま川鉄道株式会社永江社長から、球磨川第4橋梁の被災現場（相良村）において被害状況及び復旧の課題について説明を受けた。また、人吉温泉駅（人吉市）において列車の被害状況等について説明を受けた。



(被災した球磨川第4橋梁)



(人吉温泉駅での聞き取りの様子)

## F 球泉洞

球磨村森林組合松野氏から、球泉洞及び製材所の被災状況について聞き取り調査を実施した。また、復旧支援に来ていたボランティアの方々にもインタビューを実施した。



(球泉洞の説明)



(ボランティアにインタビュー)

### (5) グループワーク (11月24日、12月1日)

フィールドワーク後にグループワークを2回実施し、調査結果をとりまとめ、プレゼンテーション資料を作成した。

まず、撮影した動画や録音データを確認しインタビュー結果について振り返りを行った。

次に、資料作成にあたって、「導入」～「トピック」～「まとめ」の構成で作成すること、各テーマについて伝えたいことをトピックとして紹介すること、フィールドワークで撮影した動画や写真を積極的に活用することを指導した。

プレゼンテーションについては、リレー形式で各人が2分程度の発表を担当するよう役割分担をグループ内の話し合いで決定した。また、発表の際はなるべく発言メモを見ずに説明できるように準備することを指導した。

なお、自主学習日(12月8日)を設け資料作成やプレゼンテーションに関する助言を行ったり、teams上でプレゼンテーション資料のブラッシュアップの助言を実施したりして、発表会当日まで指導を行なった。



(調査結果の取りまとめ)



(プレゼンテーション資料の検討)



(6) 合同発表会 (12月15日)

パワーポイント等で作成したプレゼンテーション資料により、「人吉球磨地域の今」について各グループ10～15分程度で調査結果を発表した。各グループの発表後に引率教員から講評を行った。

発表会終了後には、各グループが作成したプレゼンテーション資料と発表動画を teams 上に掲載し、振り返り学習ができるようにした。

なお、テレビ局の取材(1社)があり緊張感のある中で発表会を実施することができた。



①球磨焼酎グループ



②球磨川くんだりグループ



③くま川鉄道グループ



④球泉洞グループ



⑤人吉城跡グループ



⑥青井阿蘇神社グループ

## 【参考】プレゼンテーション資料

### ① 球磨焼酎グループ

# 織月酒造をインタビューして


執筆者: 梶原悠平・宮川敬哉・稲田智哉・中山継斗・山田碧・原田直人

1

## 織月酒造


- ・ 明治36年（1903年）に堤治助商店として焼酎作りを開始
- ・ その後同じ名を襲名した2代目堤治助が後を受け継ぎ、全国へと普及
- ・ 100周年を機に「峰の露酒造」から「織月酒造」へ名を改める
- ・ こだわった貯蔵方法が特徴

土甕貯蔵      樽貯蔵



2

## 織月ができるまで



球磨川の清らかな伏流水と、厳選された米を用いたこのような過程を1ヶ月経て、織月は作られる

3

## 球磨焼酎の商品紹介




川辺      織月      黒麹 峰の露      舞せんげつ      たる織月

4


## 新型コロナウイルスの影響

- ・ 新型コロナウイルスの影響によって、織月酒造への入場者数が激減した。
- ・ go toキャンペーンの開始と同時に観光客数、入場者数が少しずつ増加してきている。



5

## 水害



当日の敷地内      当日の製品倉庫

6



一ヶ月後の敷地内      一ヶ月後の製品倉庫

7


## 現社長の活動

- ・ 堤 純子社長
- ・ 2003年 入社
- ・ 2016年1月 社長に就任
- ・ 4代目
- ・ アルコール業界では数少ない女性社長



8

- ・ 織月酒造の米焼酎と熊本県産の赤しそを使用
- ・ 甘酸っぱいリキュール
- ・ 地域資源を使用
- ・ ハート形のラベル



9

### 織月まつり




毎年5月に開催していて、30年以上続いている。  
焼酎の飲み比べやステージイベント、飲食コーナーなどがある。  
織月まつりの売り上げは、地域の学校などに寄付している。

10

うかじたかし  
**宇梶剛志**  
1962年生まれ、東京都出身、俳優

熊本地震後の織月まつりでは、会場の方々に寄付を呼びかけた。  
宇梶さん自身も、熊本に寄付。  
とても優しく、魅力的な人物  
(織月酒造 田中さんの実際にお会いした感想)



11

### まとめ


- ・ 織月酒造さんは4月にコロナウイルスによる影響を、7月には豪雨被害に遭い大打撃を受けた。



12

### まとめ

- ・ 昔から人とのつながり、地域とのつながりを大切にしていたため多くのボランティアの助けや多くの励ましのメッセージが寄せられた。



13

### 参考文献

- ・ 『織月酒造株式会社ホームページ』 <http://www.sengetsu.co.jp/>
- ・ ザテレビジョン タレント <https://talent.thetv.jp/person/0000000997/>

14

ご静聴ありがとうございました

15

② 球磨川くだりグループ

## 球磨川下り




岩坪・浦本・後藤  
平・富山・堀・森友

- 球磨川下り
- サイクルツーリズム
- 釜田醸造所
- ホテル鮎の里
- その他
- 終わりに

1

## 瀬崎公介社長



- 株式会社シークルーズ代表取締役
- 球磨川くだり株式会社代表取締役
- クルーズ船・定期航路・宿泊施設・旅行業
- マリーナ運営・ボート免許教室

2

## 球磨川下り

- 被害状況  
球磨川下り用の船 12隻  
⇒ 破損
- マイクロバス、トラック、クレーン  
⇒ 廃車



3

## 球磨川下り

- 被害後の球磨川

上流から流された岩、泥  
>>>> 下流域に蓄積  
川水の泥水化

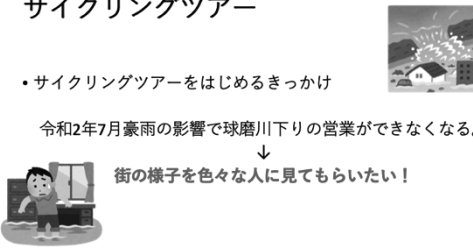


4

## サイクリングツアー

- サイクリングツアーをはじめるきっかけ


令和2年7月豪雨の影響で球磨川下りの営業ができなくなる。  
↓  
街の様子を色々な人に見てもらいたい！



5

## サイクリングツアー

- 自転車  
ドイツ製（熊本県では初導入）  
電動アシスト付き
- ツアーコース  
醤油・味噌製造所→あゆの里  
→青井阿蘇神社→人吉城跡



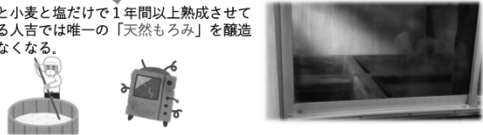
6

## 釜田醸造所みそ・しょうゆ蔵

味噌や醤油の他に、それらを使った漬物や佃煮を作っている工場  
令和2年7月豪雨により様々な機械が浸水して使用不可に。

↓

大豆と小麦と塩だけで1年間以上熟成させて  
できる人吉では唯一の「天然もろみ」を醸造  
できなくなる。




7


## 釜田醸造所みそ・しょうゆ蔵

- 豪雨災害を乗り越えた今、一番忙しいこと

消費者が工場にお米を持ち込み、そのお米を味噌  
に変えてもらう「委託加工」と言われる作業




8

**釜田醸造所名物の“佃煮”** 

工場で製造された「うまくちしょうゆ」で炊いた佃煮

- ・“木くらげとわかめ”の佃煮(山一番人気商品)
- ・“からしそ昆布”の佃煮

蔵での試食やネットでの購入も可能なので、  
ぜひ食べてみてください!



9


**あゆの里** 

- ・建設75年以上
- ・大浴場と露天風呂で構成された温泉
- ・鮎を基調とした和食会席


す、すごい!



10

**被害状況** 

- ・1階部分はすべて浸水
- ・ボイラーから重油の漏れ
- ・特注のカウンターの損失
- ・特別な書道の汚染
- ・地下にある大きなお風呂の修復不可能
- ・茶室の消失




11

**青井阿蘇神社・人吉城跡**


～青井阿蘇神社～

- ・創建は、1200年
- ・平成20年に国宝に指定
- ・現在は、菊花展が開催されている



～人吉城跡～

- ・別名：「三日月城」・「織月城」
- ・相良氏が初代から、35代で670年間統治した
- ・武者返しという石垣が残る
- ・高台からは球磨川と人吉市内が一望できる



12

**最後に...**

初めてのアテンドで時間配分やコース取りなど課題はたくさん出ましたが、生徒の皆さんには概ね喜んでいただけよう  
です。  
これからブラッシュアップをしながらお客様が満足して  
いただけるツアーを目指し社員一同頑張っていきたいと思  
います。

街の誰も球磨川  
を恨んでいない、  
これからも球磨  
川と共に生きて  
いく。



引用：  
<https://m.facebook.com/pg/kumagawakudari/posts/>



13



14

③ くま川鉄道グループ

**くま川鉄道**

塚本響／松本祐子／橋本怜奈／大田瑠夏／那田有紀

1


◎目次

- Introduction  
被害前の状況
- main text  
1. 被害状況  
2. 対応策  
3. 問題点  
4. 復旧、復興
- summary  
社長の思い (大学生に求めるもの。)

2

Introduction(災害までの状況)

- 電車の利用状況  
→ 高校生が8割を占めていた。
- 財政状況  
→ 31年連続赤字  
→ 年間約8000万円の赤字



3

### 1.被害状況

- 人吉温泉駅-肥後西村間(土砂流入・車両浸水)
- 田園シンフォニー 5両全て浸水
- 川村駅(土砂流入・道床流出)
- 球磨川・川辺川の合流地点(約1km)  
球磨川第4橋梁 流失





4

### 2.対応策




5

### バス代替輸送

- ・現在のくま川鉄道の通学利用者は850名
- ・くま川鉄道の本数は上り下り各14本
- ・代替バスの本数 上り7本、下り6本




6



7

高校生利用者の親が不満を抱く

↓

親が子供を熊本市内の高校に出す

↓

地域から人が流出してしまい、不況になる

8

### 4. 復旧・復興

- 『鉄道復旧』を決定
- 復旧費
- 第4橋梁
- ベストミックス目指す







9

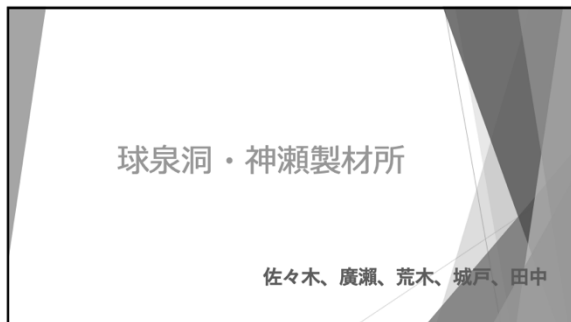
### Summary 社長の思い

- 後継者について
- 大学生に求めること

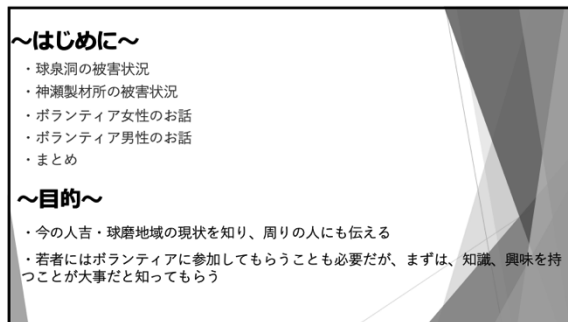



10

#### ④ 球泉洞グループ



1



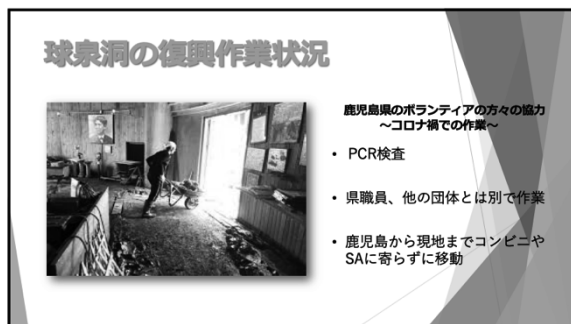
2



3



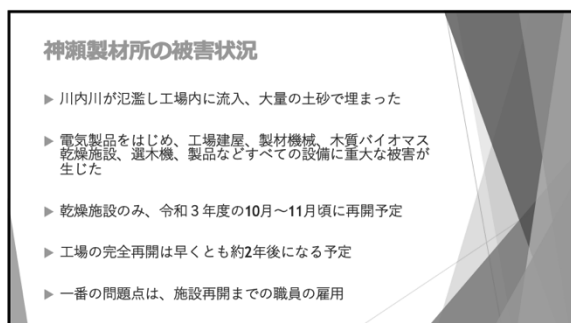
4



5



6



7



8

### ボランティアの方のお話

- 今回の豪雨災害について
  - ・ 災害自体の大きさ
  - ・ ボランティアの数の少なさ（コロナ禍におけるボランティア制限）
- 「復興」までを視野に入れて  
被災地にも人々の生活や子供たちの成長が残っている  
若者が離れていってしまうのでは、という懸念

→ 少しでも早い復興を

9

### ボランティアの方のお話

- いま、求めていること



10

### ボランティアの方のお話

- いま、求めていること

▶ 復旧・復興に対する理解	○ 被災地に対する興味
▶ 人材、予算不足などの問題	・ 災害を忘れてしまいがち
▶ 被災地にとって何が必要か	→ 被災地の孤立…被災した人々の心の病など、さまざまな問題が発生
▶ 足を運んでほしい	

→ **1日でも早い復興を実現することが重要**

被災地支援…ボランティア、寄付活動、被災地経済活性化 etc...

ひとりひとりができることで**1日でも早い復興の実現に協力**

11

### まとめ～球泉洞と神瀬製材所～

- ▶ 川の氾濫や崖崩れの影響で土砂が施設内に流入し、甚大な被害となった
- ▶ 関係機関や企業、個人、ボランティア等の人たちにより復興が進んでいる
- ▶ 新型コロナウイルスの感染予防対策をしながらの復興作業
- ▶ 球泉洞は来年5月、神瀬製材所は再来年の再開となる予定

12

### まとめ～ボランティアの方々のお話～

- ▶ これまでも水害はあったが、今回はそれらを上回る被害
- ▶ 人材やボランティアが少なく、復興に時間がかかっている（新型コロナウイルスの影響がある）
- ▶ 今後の災害に備えて備蓄等の準備をしてほしい
- ▶ 復興・復旧に何が必要かたくさんの人に“理解”してほしい
- ▶ 災害を忘れないように興味を持ってほしい

13

## ⑤ 人吉城跡グループ




### 人吉城の魅力とこれから

中野 毎末 山本

1

### はじめに

インタビューを受けてくださった人  
人吉市役所歴史文化課 岸田裕一さん




- 1, 人吉城の歴史
- 2, 水害について
- 3, 人吉城の現状

2



### 人吉城の歴史～灵石・三日月石




月の満ち欠けが再生の  
氣を生むと考えられた  
一人々の祈りの対象で  
あった

- ・築城の際に出土
- ➡「三日月城」の由来となる
- ・城主相良家により代々、本丸の居城に祀られる

サイト「人吉・球磨 風水・祈りの城下町」より引用

3

### 人吉城の歴史～球磨川・胸川の利用




- ・人吉城は人工の堀を持たない
- 人吉城を挟む2つの川が堀の役割を果たしている
- ・物資を運ぶ際の水運としても利用

画像：サイト「シュミカツ！～【歩く道100選】ひな人形が春を告げる豊かな隠れ里\_球磨川と人吉相良の歴史を訪ねるみち（熊本県）」より引用

人吉城にとって球磨川と胸川は無くてはならない存在


4

### 人吉城の歴史～復元された櫓



文化財は、元の資料や写真が無ければ復元できない

写真を基に復元



20131221144400th.jpg (500x436) (r2.com) より引用

201312211443384th.jpg (500x375) (r2.com) より引用

5

### 人吉城の歴史～家臣屋敷の跡地

かつて相良氏家臣達の屋敷があった 全国的にも珍しい、井戸を持つ地下遺構





櫓の礎が2000個以上と刀が出土 隠れキリシタンや阿が儀式のために使われていた？

201312211443384th.jpg (500x375) (r2.com) より引用


4320180932002826\_csmml.jpg (300x300) (vashiro.com.jp) より引用

6

～人吉城本丸跡地～  
天守閣の建設  
悪い噂  
護摩堂の建設へ切り替え



～石垣の造り～  
当時の最先端の技術であった「羽出しの石垣」



7

### 5. 人吉城と水害

令和2年7月豪雨 甚大な被害

人吉城歴史館の浸水被害  
→臨時休館中  
資料・標本の水没  
→修復へ

過去に何度も水害が...


江戸時代 約4.6mの高さまで浸水  
城の中を船で行き来していた

8

### 6. 人吉城と水害

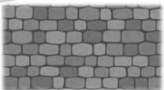
今回の豪雨→ 人吉城の石垣が全く崩れていない

水に強い石垣になるよう、工夫を重ねてきた結果



球磨川と発展してきた城下町  
「球磨川は悪くない」という地元の方々の声も

さらにパワーアップした人吉を



9

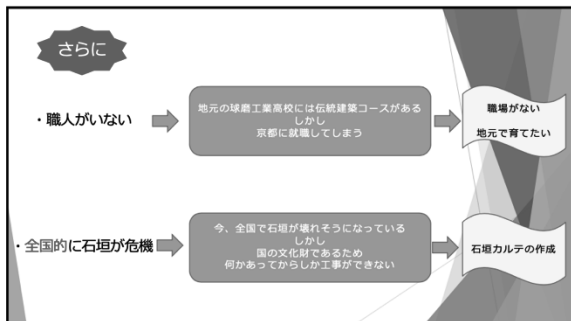
### 現状・課題

石垣修復までの過程

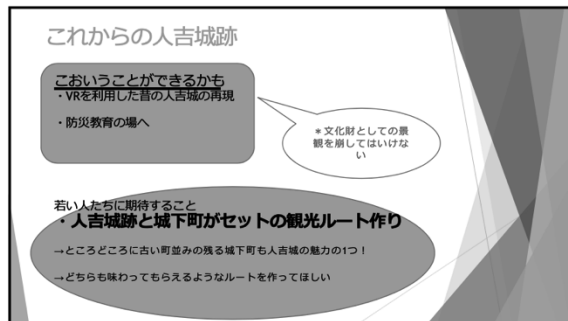
- 石垣の調査・解体
- ↓
- 工事の予定を立てる
- ↓
- 有識者委員会で審査
- ↓
- 修理開始

時間手間もかかる !!

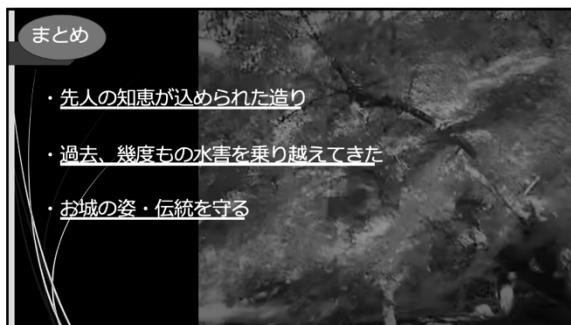
10



11



12



13

⑥ 青井阿蘇神社グループ



1

目次

1. 青井阿蘇神社の紹介
2. 青井阿蘇神社の歴史
3. 青井阿蘇神社の特徴
4. 7月豪雨災害
5. 復旧
6. まとめ

2

1. 青井阿蘇神社の紹介

- ・1200年の歴史  
大同元年（806年）に神社創建
- ・国宝指定の文化財
- ・神々を祀る三大祭  
おくんち祭  
夏越祭  
稲荷神社 初午の祭り

3

2. 青井阿蘇神社の歴史

平安時代初期→神様が祀られる

鎌倉時代→相良氏が人吉へ！700年に及ぶ支配

江戸時代→国宝指定の「楼門」建てられる

Qなぜ現在地に建てられたのか？！  
北に山、南に窪地、東に川、西に道が抜けているから！  
ex)奈良の平城京・京都の平安京

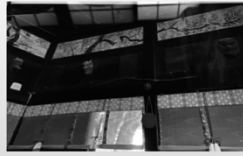
4

### 3. 青井阿蘇神社の特徴

☆楼門の茅葺屋根・漆による黒



☆人吉様式



楼門屋根の四隅の軒下に陰陽一對の計8つの新面  
→全国的に珍しい

5

### 4. 7月豪雨災害について

7月4日

**6:00** 市長自ら避難の放送をしていた。  
道の側溝から水が吹きあがり、低いところから溜まっていた。  
宮司さんは朝食をとり終え外へ出ると、水で戸が開かなくなり、  
畳が水で持ち上がるようになった。

**9:30** 道は川が流れるようになっていた。  
家が崩れているところもあった。

**14:00** 家から出られるようになった。  
黄色のテープまで水がきていた。



6

### 4. 7月豪雨災害での被害



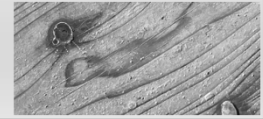
7

### 5. 復旧

・水没奉納刀 1000年先まで遺すプロジェクト  
目標500万円、実際約3500万円  
約3100人が寄付、1人当たり平均1万円

・支援物資の供給点としての役割  
青井阿蘇神社を24時間解放  
食料、衣類など様々な物資の  
供給点となった

・地元の中高生ボランティア  
中高生が60人近く集まった  
5人グループに分かれて高齢者の住宅へ



8



9

### 復旧から復興へ

神社の隣に結婚式場を建設予定  
→神社を輝かせてくれる建物に  
・建築家隈研吾さんが設計  
・令和2年12月15日に起工式  
・2階スペースに刀の展示



「人を惹きつけ、この地域に人を留まらせ、街を潤す」

神社がこのような働きをもったとき ⇒ 復興

10

### 6. まとめ

これまでたくさんの方の力をかりて今の神社がある  
神社が地域や周りの人に対して何ができるのかを考える

他人の力はあなどれない  
たくさんの方との繋がりを大切にする

ぜひ一度青井阿蘇神社を訪れてみては？

11

### 参考文献

・青井阿蘇神社ホームページ  
最終閲覧日：2020.12.14  
<https://aoisan.jp/>

ご清聴ありがとうございました。

12

## 5. 取り組みの成果と課題

### (1) 取り組みの成果

遠隔授業中心だった1年生にとって、対面でのグループワークやプレゼンテーションはあまり経験がなかったため不安もあったが、協力して作業を進め期限までに資料を作成し、発表することができた。授業全体を通してグループでの自主的な活動を重ねながら学習を進めた結果、発表会では良いプレゼンテーションができたと評価している。

今回の授業では、8回の授業全部を3ゼミ合同で実施した。授業の実施には相当の準備が必要となったが、選択肢の幅が広がることでより中身の濃い授業を実施することができた。特にプロのアナウンサーを外部講師に招いた「インタビューの技術」の授業は大変有益であり、実技演習を含めると授業時間が1コマ分では不足したという反省点もあった。

また、フィールドワークについては、例年1年次に経験する「もやいすとジュニア育成」でのフィールドワークを今年度は実施しない中であって、今回の演習で被災地における活動を実施したことにより参加した学生の経験値を大きく引き上げることができた。被災者の生の声を聞くことによって地域の課題を自分のものとして捉え、各グループのプレゼンテーションのまとめの中にも「被災地のため学生に何ができるか」という発表がなされており、各グループが問題意識を持って取り組むことができた。

### (2) 課題

#### ① 新型コロナウイルス対策

フィールドワークを実施した11月中旬は、新型コロナウイルスが徐々に再拡大し始めた時期であり、感染拡大防止には細心の注意を払った。33人の学生を少人数のグループに分けて活動することで感染リスクを抑え、マスクの着用はもちろん、手指の消毒、ソーシャルディスタンスの確保など移動中や訪問先での対策徹底に努めた。また、授業は全て大演習室で実施したが、室内の換気、出席者の検温、手指の消毒などを徹底した。

#### ② グループワーク

学生主体の活動により授業を進めたが、当初は与えられた課題に対し何をすれば良いかわからないグループもあり進捗はグループによって様々であった。グループワークにおいては各構成員が協力して(手を抜かずに)作業を進めていくことが肝要だが、対面授業の回数が少なくグループワークの機会も少なかつたため資料の完成が発表当日になるなど進捗管理が難しい面もあった。

#### ③ プレゼンテーション

プレゼンテーション資料の作成については、最初に作成されたスライドは文字情報が多かったため写真や動画の使い方について助言が必要であった。分かりやすく伝えるための資料の作り方については別途学習する時間を設けるなどの工夫が必要と感じた。

発表については皆比較的落ち着いて実施できたが、「なるべくメモを見ないで発言する」という指導について実践できた学生は少数であった。

## 6. おわりに

コロナ禍においてフィールドワークを実施することはかなりのリスクを伴うものであったが、実施時期が小康状態にあったため、関係者の協力を得て計画どおり実施することができた。今回の演習を通して被災地で学生が直接見聞きし体験したことは何物に代えがたい経験であり、得た知識を資料にまとめ自らの意見も含め「人吉球磨地域の今」として情報発信できたことは、今後様々な場面で課題解決に取り組んでいくうえでの自信につながるものと考え。現地の方からは、被災から数か月が経ち徐々に被災地のことが報道されなくなっており情報発信が課題との声が多く聞かれたことから、学生には引き続き被災地のことに関心を持って研究やボランティア活動等に取り組んでくれることを望む。

また、今回の取り組みを通して得られた副産物として、ゼミ間の垣根を取り払ってグループを編成したため初対面の学生同士でグループを組むこととなり、結果としてコロナ禍における課題である「学内の仲間づくり」の一助となった。大学においては知識を身につけることも必要だが、色々な人と関わることでコミュニケーション能力も身につけてほしい。

この原稿を作成している令和2年12月の時点では、新型コロナウイルス第3波到来の最中にあり未だ収束が見えないところであるが、今回の基礎総合管理学演習の取組みを今後の授業設計の参考としたい。

## 7. 謝辞

ご多忙中またコロナ禍にかかわらずフィールドワークにご協力いただいた人吉市歴史文化課岸田裕一学芸員、球磨村森林組合松野雄貴氏、青井阿蘇神社福川義文宮司、織月酒造株式会社田中泰昭常務、くま川鉄道株式会社永江友二社長、球磨川くんだり株式会社瀬崎公介代表及び社員の皆様、特別授業を実施していただいた KAB 熊本朝日放送柴田理美アナウンサー、そして今回の授業を共同実施した総合管理学部宮園博光先生及び岩見麻子先生に対し、心より感謝申し上げます。